

あさかわせんじょうちいせきぐん
浅川 扇状地 遺跡群 現地説明会資料

(一財) 長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

1. はじめに

長野県埋蔵文化財センターでは、都市計画道路高田若槻線の建設（県長野建設事務所事業）に伴い、平成 23 年 4 月から桐原・吉田田町地区で、浅川扇状地遺跡群の発掘調査を行っています。平成 30 年度までの発掘調査では、弥生時代後期から平安時代の 堅穴 建物 跡 206 軒を中心に、弥生時代から中世の墓跡 13 基、弥生時代から近世の溝跡 84 条など様々な 遺構 がみつかっています。

2. 今年度調査の概要

所在地：長野市桐原 2-19 ほか

調査面積：1,800 m²（表面積）

調査期間：平成 31 年 4 月 8 日～令和元年 11 月 29 日(予定)

今年度の調査で発見されたもの：

- 遺構
- 堅穴建物跡 7 軒（古墳時代 1、平安時代 6）
- 溝跡 7 条（古墳時代～平安時代 6、中世 1）
- 土坑 38 基（古墳時代～中近世）
- 遺物
- 弥生時代の土器（壺・甕 など）、古墳時代の土師器（坏・高坏・器台・甕 など）・石製 模造品、平安時代の土師器（坏・甕 など）・須恵器（坏 など）・灰釉 陶器（皿）・緑釉 陶器（碗）、中世の土師質 土器（鍋・皿 など）・銭貨、近世以降の陶磁器（碗 など）



遺構検出作業の様子



中世の堀跡掘削作業の様子

3. 説明会の見どころ

本日は、古墳時代や平安時代の堅穴建物跡や、中世居館（桐原 要害）の堀跡を現地公開します。時代による建物の構造の違いや堀跡の深さなどを実感し、さらに、それぞれの遺構から出土した土器などの遺物を間近で見学し、時代による 器 の変化などを感じていただきたいと思います。

古墳時代と平安時代の堅穴建物跡（今から約 1600～1100 年前頃）

今年度は、4 月に調査を開始し、現在までに古墳時代の堅穴建物跡 1 軒と平安時代堅穴建物跡 6 軒がみつかっています。

古墳時代の建物跡の埋土からは、台付 甕 や、坏・高坏・器台などが多数出土しました。また、平安時代の堅穴建物跡の床面からは、少量ではありますが、完全な形の坏などの遺物が出土しています。そして、平安時代建物跡の東側壁の中央付近は焼けていて、そこにカマドが設けられていたことが分かります。



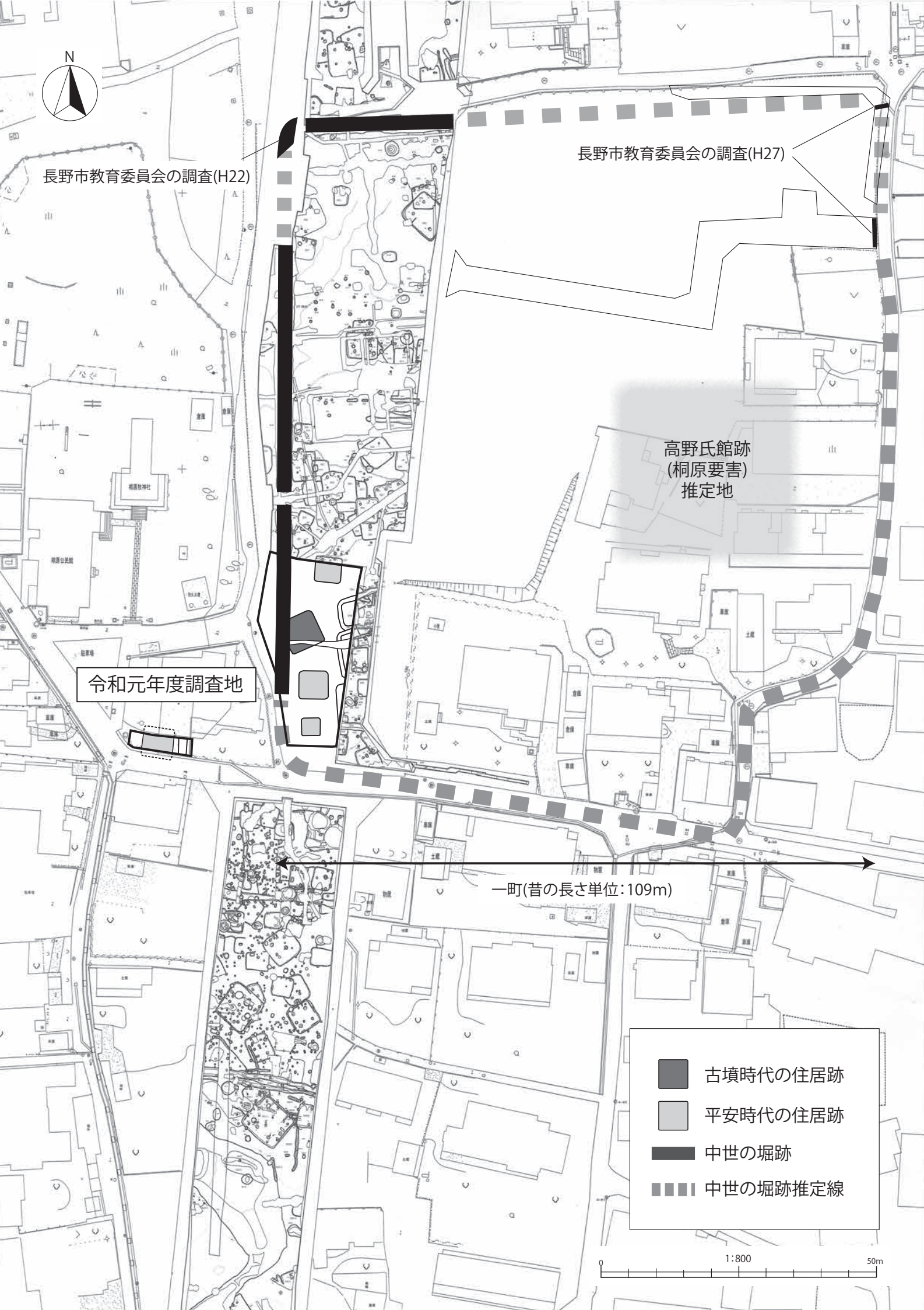
古墳時代堅穴建物跡出土土器の取り上げ作業

中世居館の堀跡(今から約 600 年前頃)

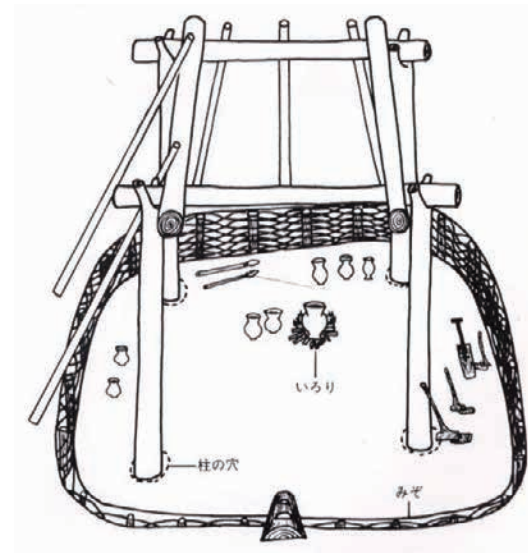
調査地区の西側には、南北に直線的に延びる最大幅約 3m 最大深度約 1.2m の堀跡がみつかっています。平成 23 年度に調査した北側の地区から続いていて、南北に約 100m 以上の長さになることがわかりました。また、堀の埋土からみつかった 内耳 鍋 や「かわらけ」と呼ばれる皿などから、この堀が約 600 年前に埋まったことが分かります。



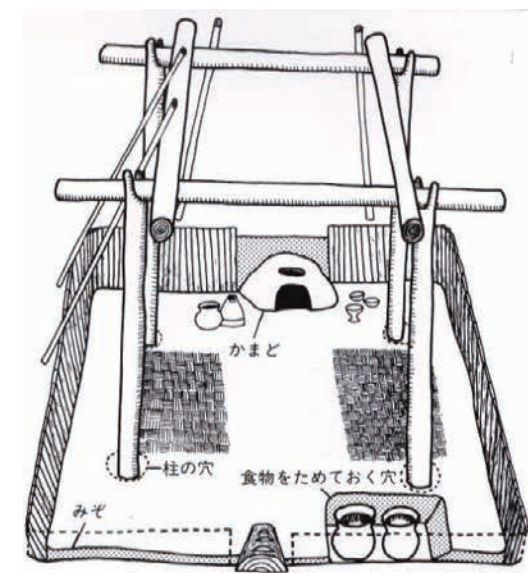
堀跡の堆積の様子



竪穴建物跡の構造



古墳時代中頃以前

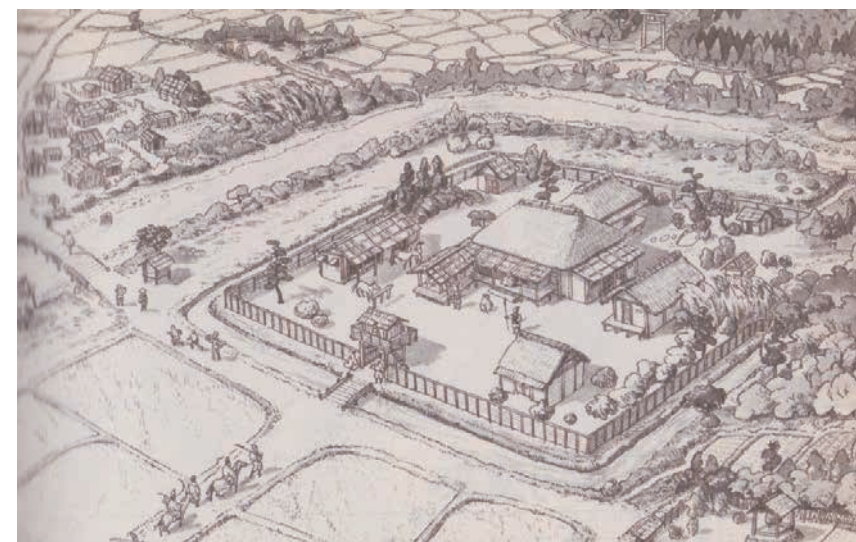


古墳時代中頃以降



左図:「ぼくらの祖先たちは一日向遺跡編」右図:「いま信濃の歴史はよみがえる」

中世の館跡の例



「新編新しい社会(歴史)」

遺跡現場には滑りやすく足元の悪い箇所がありますので、見学の際には転倒やケガがないように十分ご注意ください。

